

明治三十九年四月

區畫測設調查員心得
土地調查心得
殖民地撰定及區畫施設規程

樺太民政署

5-0398

0254

區畫測設調査員心得

- 第一 凡ソ原野ニ臨ンテハ豫メ地味地勢ノ狀況ヲ查察シ然後大中小ノ區畫ヲ施スヘシ徒ニ設計ニ拘泥シテ拓地ノ方法ヲ過ラサル様注意ヲ要ス
- 第二 實地ニ就キ大体ノ地勢ヲ探リ大半小畫トナルヘキ箇所ハ可成各區ノ地味地勢ヲ均等ナラシムル位置ヲ考察シテ基線ヲ設クヘシ
- 第三 狭長ナル原野ニシテ兩岸ノ山岳屹立シ將來増畫ヲ施設スルコト能ハサル所ハ可成川原ヲ沿ヒ將來道路トナルヘキ箇所ニ幹線ヲ施設スヘシ
- 第四 他日増畫ヲ必要トスル箇所ニシテ道路線ト區畫線ト一致セサル場合ニハ別ニ適切ナル道路線ヲ見込置キ區畫線ハ直線ニ施設スヘシ
- 第五 風防林ノ部分河川ニ會シタル時ハ其會シタル上位ノ部分ハ地勢ニ依リ可成其位置ヲ變更シ河川ニ沿フテ存置セサル様注意スヘシ
- 第六 山麓ニ從フテ境界ヲ畫スル時ハ區畫境界線ノ出入犬牙錯雜シ積算ニ時間ヲ徒費スルノミナラス他日増畫スル場合ニ於テモ整理ニ手數ヲ要スルカ故ニ境界線ハ區畫階線或ハ裏境等ニ依リ欲畫ナキ様施設スヘキコト
- 第七 成墾地貸付地アル場合ニハ區畫施設規程第九條ニ依ルノ外尚ホ可成實地ニ於テ關係人ニ就キ承諾

書ヲ取り區畫嵌入方ニ故障ナキ様處理スヘシ

第八 區畫地内ノ地形ヲ概略調査シ圖上ニ地形線或ハケバ山ヲ以テ顯ハシ置クコト

第九 森林トノ境界標識ハ三百間毎ニ規程ノ標識番號ヲ付スヘシ但シ方面屈曲シタル時ハ其隅角ニ前項ノ標識番號ヲ付スヘシ

第十 原野ニ通スル幹線通路ノ刈分ハ他ノ線路ノ刈分ヨリ町疇ニシテ可成移民ニ交通ノ便ヲ與フル様注意スヘシ

第十一 原野所屬ノ郡村字名ハ正確ニ調査シ原野ノ命名モ適切ナル様注意スヘシ

第十二 將來ニ於テ土地整理ノ目的ヲ以テ大畫ヲ行フ場所ハ可成其内部ノ地形土壤等ヲ查檢シ其色分圖ヲ調製スヘシ

第十三 區畫地ノ地勢如何ヲ考ヘ放牧地又ハ共有地ハ其ノ原野ノ大小ニ依リ適宜ノ箇所ニ設置スルコト

第十四 舊區畫地ヲ増畫スル場合ニハ地勢上舊畫ト線號名ヲ取替ヒ施設スル方適當ト認ムルトキハ原野名ヲ變更シテ施設スルコト

第十五 増畫スル場合ハ増畫地ニ接續シタル舊畫地ノ缺畫ヲ合併スルニ差支ナキ様整理スヘシ

第十六 舊畫ト接續又ハ接近ノ箇所ニ區畫ヲ施設スルトキハ少シモ二ツテ所以上舊區畫ニ發測シ地圖編製上差支ナキ様結ヒ置クコト

第十七 増畫ノ箇所ハ出張前舊畫圖ヲ賸寫シ參照シテ不都合ナキ様施設スヘシ

第十八 各員ノ受持原野名及見込口數其他移幕旅行ノ際ハ豫メ本署ニ届出ヘキコト

第十九 地積ニ増減ヲ生シ豫定日數ニ異動ヲ及ホスノ處アル時ハ直ニ報告スヘシ

第二十 一原野ノ事業ヲ終結ノ見込立タル時又ハ終結セシ時ハ其都度圖面ヲ添へ概況ヲ報告スヘシ

第二十一 二万五千分一ノ區畫圖及ヒ五万分一ノ略圖ハ歸廳後延滞ナク提出シ得ル様豫メ用意シ置クコト

第二十二 出張員天幕所在地ニ至ル入口ニハ其徑路里程等ニ圖解標示シ置クヘシ

第二十三 公用ニ開スル一切ノ信書ハ必ス官名ヲ書スヘキコト

第二十四 出張中降雨其他ノ都合ニテ内勤ノ節ハ可成原圖ノ整理ヲ計リ歸廳後延滞ナカラシムコトヲ期スルコト

土地調査心得

調査概則

- 第一條 凡ソ土地ノ買拂付與交換貸付及使用ヲ出願シタル者アルトキハ平面測量法ニ依リ實測スルモノトス但シ特別ノ規程アルモノ又ハ實測ノ必要ナキモノハ此ノ限ニアラス
- 第二條 土地ヲ調査又ハ實測セムトスルトキハ特別ノ規程アルモノヲ除クノ外四至ノ境界ニ標杭ヲ建設セシメ出願人及接續地ノ關係者ヲ立會セシメ著手スルモノトス
- 第三條 土地ヲ調査スルニハ些少ノ餘地又ハ袋地ヲ生セシムルコトナキヲ期スヘシ
- 第四條 國道ハ道路ノ中心ヨリ左右ニ七間三尺宛線道并ニ緊要ナル鐵道停車場ヨリ國縣道ニ達スル道路ハ同六間宛線道ハ同二間乃至五間宛ヲ道路排水及並木敷地ト假定シテ除地シ置クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ排水及並木敷ヲ設クルコト能ハサルトキ又ハ之ヲ設クルノ必要ナシト認ムルトキハ實地調査以前其ノ事實ヲ具申スヘシ
- 第五條 道路ヲ豫定スルニハ豫テ道路設計圖ヲ製シ之ニ豫定道路ノ幅員延長及其ノ位置ヲ記載シ置キ爾後新タニ豫定シタル路線ハ其ノ時々記入ノ上他日交通上不便ナキ様注意スヘシ
- 第六條 河岸地ハ河川ノ幅員及水流ノ緩漫地形等ヲ參酌シ堤防敷地トシテ左ノ制限ニ依リ適宜除地シ又溜川或ハ溜水等ニシテ他日疏流ノ見込アルモノハ適宜除地スヘシ但シ本條ノ制限ニ依リ難キトキ又ハ依

以必要ヲシテ認ムルトキハ經何ノ上伸縮スルコトヲ得
第六條 河幅 八十間未滿 其左右河幅以上
第七條 湖沼地及鑛泉地ノ周圍ハ五間乃至三十間ヲ除地スヘシ若シ願地内ニ存在スルトキハ近傍道路等
通過ル路綫(其幅四間)ヲ除地スヘシ(第三圖參照)

第八條 海岸地ハ浪打際ヨリ(春分秋分最高潮ノ)五間乃至十五間ヲ除地スヘシ
第九條 開設ノ道路(豫定道)ニシテ其ノ幅員第四條ニ規定シタル制限ニ充タサル箇所ニ接シタル土地ハ
調査スルトキハ地勢ヲ參酌シ制限間數ヲ除地シ置クモノトス(第一圖參照)

第十條 地積ヲ計算スヘキ地圖ハ尺度千二百分ノ一(曲尺五厘ヲ)ヨリ縮少スヘカラス但シ大地積ニシテ
本條ニ依リ難キモノモ尺度二百分ノ一ヨリ超ユルコトヲ得ス

第十一條 地圖ハ既測ノ土地其ノ他不動物ヘ二箇所以上ノ點測セル所ヲ詳記シ他日實地ノ位置ヲ判明スル
シムル様注意スヘシ但シ既定地又ハ不動物遠クシテ其ノ測線ヲ縮少セムトスルトキハ積算圖ノ外別ニ點
測線ノ細圖ヲ添付スヘシ(第四、五、六圖參照)

第十二條 地圖ハ方位ヲ示シ周邊及斜線ノ長サハ間以下分厘(四捨五入ノ法ヲ)ニ止ムヘシ但シ斜線ヲ施ス
ニハ朱墨ヲ用ヒ赤インキ等ヲ用ユヘカラス

第十三條 地積計算法ハ市街宅地ニアリテハ寸未滿ノ端數ヲ其ノ他ハ坪未滿ノ端數ヲ切捨ツヘシ但シ一筆

若シ一箇所ノ地積二箇以上ノ算出ニ涉ルトキハ(イ)ノ管號ヲ用ヒ每管號ノ地積ハ坪以下ノ端數ヲ
存シ其ノ合計ニ至リテ本條ニ依ルモノトス(第二圖參照)

第十四條 市街宅地ヲ除クノ外ハ坪數總計ノ左傍ニ反別ヲ記載スヘシ
第十五條 地圖ハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス
第一 願地地積地名及願人ノ族籍、住所(寄留人ハ寄留地ヲモ)氏名、比例尺、製圖ノ年月日、測者ノ官職氏名
第二 願地ニシテ貸付中ニ係ルモノハ願地ノ右傍ニ貸付地目地積及貸付許可ノ年月日ヲ朱書スヘシ
第三 大地積ニ對スル地圖又ハ聯絡圖ニシテ坪數ヲ一地圖ニ記載シ難キトキハ別ニ積算簿ヲ製添付スル
第四 坪數以下此ノ場合ニアル地圖及積算簿ニ番號ヲ記シ以テ參照シ易カラシムヘシ(第七圖參照)ヲト

第十六條 河川又ハ道路等ヲ以テ中斷セル土地ハ甲乙等ニ分筆シ各其ノ地積ヲ計算スヘシ(第二圖參照)
第十七條 調査地内ニ樹木又ハ其ノ他ノ產物アルトキハ其ノ種類員數及樹木ハ周尺(目通)ヲ檢査シ置ク
第十八條 調査シタルトキハ願書及圖面等ニ照シ坪數其ノ他ニ於テ相違アルトキハ訂正ヲ爲サシムヘシ
第十九條 野帳實測又ハ踏査ニ係ルモノ及基點方位等ハ勿論四至ノ景況ヲ見取リ詳記スヘシ
第二十條 野帳實測簿ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ若シ誤以テ其ノ文字三線ヲ施シ其ノ傍ニ正記シ必
要塗抹又ハ削除スヘカラス但シ鉛筆ヲ以テ記載シタル文字等ニハ施墨シテ消滅ヲ防クヘシ其ノ際原稿ヲ

野帳實測簿
野帳實測簿
野帳實測簿

野帳實測簿
野帳實測簿
野帳實測簿

野帳實測簿
野帳實測簿
野帳實測簿

野帳實測簿
野帳實測簿
野帳實測簿

誤ラザル様注意ズルヲ要ス(第八圖参照)
第二十一條 野帳ノ初頁ハ其ノ記載スヘキ土地ノ地名及測者ノ官職氏名ヲ記スヘシ(第九圖参照)
第二十二條 實測又ハ踏査シタル土地ノ野帳ニ掲クルトキハ先ツ其ノ年月日ヲ記載シ若一箇所ノ土地ニシテ數日ヲ費ストキハ起止ノ月日ヲ記入スルモノトス(第八圖参照)
第二十三條 一箇所ノ土地ニ對シ出願重複ニ涉ルトキハ圖面ニ各重複出願者ノ氏名ヲ記入スヘシ
第二十四條 野帳ハ地圖調製ノ上ニ監督者若ハ特ニ指定シタルモノノ檢査ヲ受クルモノトス但シ測量中又ハ地圖調製以前ト雖隨時檢査スルコトアルヘシ

實 測

第二十五條 鑿測線ハ土地調査上必要欠クヘカラサルモノニ付成ルヘク多ク求メ置クヘシ又鑿測スヘキ不動基點ヲ去ルコト遠ク數多ノ測點ヲ經テ之ニ達スル時ハ其ノ鑿測線ヲ測ルニ誤リナキ様深ク注意ヲ要ス
第二十六條 一線ノ方位ヲ測リタルトキハ必ス其ノ正否ヲ再檢スヘシ
第二十七條 前條ニ依リ方位ノ正否ヲ再檢セムトスルトキハ乙點(初標竿ヲ据ヘ甲點(初標竿ヲ據ル地)ニ標竿ヲ立テ之ヲ反視スヘシ此ノ時磁針ノ方向ハ前ニ同一ナルカ故ニ測線ノ方位ハ必ス反對スルモノトス(甲點ニ於テ測線ノ方位ハ二十度ナレハ乙點ニ於テ反視ノ方位ハ二十度ナリ)
第二十八條 正反兩視ノ方位相反セサルトキハ必ス甲點ニ戻リテ再測スヘシ而シテ尙ホ差違アルトキハ甲乙兩點ノ中ニ鐵氣等(磁針ノ差ヲ生スルハ只鐵氣ノ一ニ)アリテ磁針ノ方向ヲシテ變セシムルモノナレハ

羅針測量ニアリテハ極メテ注意スヘシ

第二十九條 前條妨害物ノ所在ヲ探知セムトスルトキハ甲乙兩測點間ノ線ヲ延長シテ線中兩測點ノ内外各所ニ於テ其ノ線ノ方位ヲ求ムルモノトス此ノ場合ニアリテハ何レノ點ニ於テ歟必ス甲乙兩測點ノ一ニ於テ求メ得タル方位ト同一ノモノヲ得ヘシ之ヲ正シキモノトス(妨害物ハ必ス符合セザル方ニアルモノトス)又ハ他ニ一點ヲ設テ求メ得タル方位ヲ據ヘ甲點及乙點ト反視シ方位ノ一致ヲ得テ探知スルモ妨ケナシ
第三十條 甲乙兩測點ノ正反兩視相反シ乙丙兩測點ノ正反兩視相反セシテ差違アルトキハ丙點ニ妨害物アルカ爲ナリ此ノ場合ニ於テハ丙點ニ於テ求ムルカ方位ヲ加減スヘシ(第十圖参照)
第三十一條 第十圖ニ於テ甲ヨリ乙ニ向テ方位ヲ四十度トシ乙ニ妨害物アリテ磁針ノ方向ヲシテ三十度ノ差違ヲ生スル(乙點ニ羅針ヲ據ルトキハ南北ヲ指セハ乙ヨリ甲ニ向テ反視ノ方位ハ二百五十度)乙點ニ妨害物ナキトキハ(丙點ニ向テ方位ヲ求ムルニ八十度ヲ得ハ右ノ差違三十度ヲ減シテ真ノ方位五十度ヲ得ルモノトス)
第三十二條 磁針ノ差違ヲ加減スヘキ例ヲ左ニ示ス(一)正視ノ度數ヨリ(二)反視ノ度數ヨリ(三)前後ノ兩正視共ニ同象限(象限トハ四ノ内ニアル歟又ハ相對スル象限内ニアレハ後ノ正視ノ度數ヨリ磁針ノ差ヲ減シ若隣接スル象限内ニアルトキハ之ヲ加フヘシ又反視ノ度數正視ノ度數ヨリ少カキトキニ在テハ左ノ法ニ反シテ加減スルモノトス

踏査及視測

第三十三條 視測ニ依リ見取圖ヲ製スルトキハ成ルヘク精密ヲ要スルカ故ニ方位及間數等實測ニ類スル様
視測スルモノトス

第三十四條 方位ヲ求ムルニハ先ツ踏査又ハ視測スヘキ線ノ一端ニ直立シ我體ヲ測器ノ蓋ニ換ヘ兩手ヲ
以テ羅針ヲ捧ケ我眼ニ密接シテ其ノ線上ニアル一物ヲ目標トシテ踏査又ハ視測シテ其ノ方位ヲ記載スヘ
シ

第三十五條 踏査間數ハ步數ニ由テ測ルヘシ步數ニ由テ測ラントスルトキハ線上ニ二箇ノ標點ヲ求メ其ハ
一點ニ達スルトキハ更ニ又一點ヲ求メ常ニ二箇ノ標點ヲ注視シテ前進スヘシ(測量員ハ常ニ自己ノ步數
ヲ記憶スヘシ)

第三十六條 河川、穿谷、峯谷、崖地等障害物ノ爲メ容易ニ歩行シ得サル所ハ視測法ヲ用ヒ其ノ他ノ箇所ニア
テハ踏査スヘシ

第三十七條 踏査ニハ便宜ノ爲メ丈量繩若ハ測鎖ヲ代用スルモ妨ケナシ

殖民地撰定及區畫施設規程

第一條 殖民地トシテ撰定ヲ爲スヘキ箇所ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 農牧ニ適スル土地

二 地積十萬坪以上ノ土地
但十萬坪以下ト雖トモ地形ニ依リテハ此限ニアラス

三 傾斜二十度以下ノ土地

第二條 殖民地撰定ノ際ニハ土地ノ狀況ヲ詳ニスル爲メ豫メ基點ヲ定メ少クモ毎三百間ニ測線ヲ入レ地
形ヲ概測スルノ外左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 地名

二 位置及廣狹(地租)山川、沼湖、丘陵ノ狀況

三 土性、測線ニ沿ヒ毎百間ニ牽上器ヲ以テ土壤ヲ檢シ其斷層及位置ヲ野帳ニ記入シ必要ニ應ジ其標本
ヲ採集スルヲ要ス

四 樹林地草原地ノ區別及狀況

五 河川ノ水量水質及河岸河底ノ地質

六 雨雪出水ノ量及水害ノ有無

七 動植物(適宜標本ヲ採集スルコト)
 八 氣候(觀測ハ別紙様式ニ依ル)
 九 耕收適否ノ區別
 十 區畫施設ノ適否
 十一 附近農作物ノ狀況
 十二 交通ノ便否
 十三 道路排水施設ノ要否
 十四 舊部落ノ位置及狀況
 十五 從來ノ町村界ニシテ確然ト分界セルモノ
 第三條 第二條ノ調査ヲ了シタル時ハ左記ノ圖面ヲ調製シテ其地積ヲ算出表示スヘシ
 殖民地撰定圖 尺度 貳萬五千分ノ一
 土境分布圖
 第四條 第三條ノ地圖調製ヲ了シタル上更ニ四十万分一又ハ二十万分一ニ全形ヲ描キ其位置ヲ挿入シタル一覽圖ト各原野毎ニ五萬分一ニ縮圖シ農牧ノ區別及面積ヲ顯ハシ併テ土壤分布圖ヲ添ヘ殖民地撰定復命書ヲ提出スヘシ
 第五條 撰定ノ結果國土保安上必要ナル箇所其他將來貸下ヲ爲サズ現況ノ儘存置ノ見込アル地域ハ特ニ

其必要トスル理由ヲ詳記スルモノトス
 但將來殖民不適地ト認メタル箇所ハ踏査セシ概況ニ略圖ヲ添ヘ其旨記載シ置クヘシ
 第六條 殖民地撰定中ハ日誌簿ヲ携帶シ事業終了迄ノ事蹟ヲ可成詳記シ復命書ト同時ニ提出スヘシ
 第七條 測器ハ「ブリスマチックコンパス」、「クライノメーター」ヲ用ユヘシ
 但便宜他ノ測器ヲ用ユルコトヲ得
 第八條 測鎖ハ間繩ヲ用ユヘシ
 但便宜卷尺ヲ用ユルコトヲ得
 第九條 區畫施設ハ左ノ標準ニ依ルヘシ
 一 地勢及諸般ノ關係ヲ觀察シ先ツ交通道路ヲ豫定スルコト
 二 一住居地ヲ三十戸乃至六十戸トシテ可成中央ニ位從ヲ定メ之ニ中小農ノ耕地ヲ配當スルコト
 三 一住居地乃至二住居地ヲ距ル毎ニ百戸乃至二百戸ノ住居地農商工混同ヲ設置スヘシ
 此場合ハ戸數ノ十分ノ二ハ專業商估ニ十分ノ八ハ農業者ト見做シ適宜耕地ノ配當ヲ大中小農ニ區分スルコト
 四 各住居地ヲ通シテ三百戸乃至五百戸ニ滿ルヲ以テ一町村區域ト定メ諸般ノ豫定地ヲ設備スルコト
 五 一區域ノ境界ハ天然ノ地形ニ依ルコト
 六 但シ區畫ニ依リ劃定スル方恰當ノ箇所ハ此限ニアラス

六 區畫ノ基線ハ可成既成道路若クハ將來幹線道路トナルヘキ位置ニ設クルコト
七 區畫法ハ直角法ニ依ルコト

小畫(間口百五十間奥行百五十間地積貳萬貳千五百坪)ヲ單位トナシ小畫四個ヲ合シタル中畫ハ縱橫各三百間地積九萬坪)トナシ中畫四個合シタルヲ大畫縱橫各六百間地積參拾六萬坪)ト爲ス

八 地勢ニ依リ直角法ニ依ル能ハサルトキ又ハ直角法ニ依ラサルヲ便トスルトキ大中小畫ノ地積ハ必スシモ前項ニ限ラサルコト地形狹長ニシテ既成道路又ハ豫定道路ニ面シ可成多數ノ區畫ヲ施設スルトキハ一戸ノ間口ヲ百間以下ト爲スコトヲ得ス(一戸貳萬貳千五百坪ヲ標準トス)

九 中畫又ハ之ニ相當スル周圍ニハ地勢ニ依リ四間又ハ六間ノ道路敷地ヲ存スルコト

但將來縣道又ハ國道トナルヘキ見込ノ箇所ハ規程ノ道敷ヲ存スルコト

十 區畫地ハ其間口ヲ既成道路又ハ豫定道路ニ向ハシムルコト
但堤防又ハ山麓ニ面シタル土地ハ其區畫ノ一方ヲ必ス道路ニ向ハシムルコト

十一 區畫地ノ位置ハ何線何番地ト稱スルコト
但線ノ北又ハ東ヲ奇數トシ南又ハ西ヲ偶數トスルコト

第十二條 區畫地ニハ左ノ豫定地ヲ存スヘシ
一 風防林風致林水源涵養林等ハ土地ノ狀況ニ依リ適宜必要ニ應シ存置スルコト
但風防林ハ約九百間乃至千五百間毎ニ二十間ヲ存置スヘシ

二 共有地

三 共同放牧場(區畫地ニ接續シ適宜存置スルコト)

四 舊土人保護地

第十二條 住居地ハ左ノ標準ニ依ルコト

一 一戸ノ間口十二間奥行五十間六百坪トス

二 二百戸乃至二百戸ノ住居地モ前項ノ坪數ニ同シキモ其二割ヲ折半シテ間口六間奥行五十間トシ商業工業者ニ充ツル外左ノ豫定ヲ存置スヘシ

官公衙用地 約三千坪

學校病院敷地 約三千坪

神社寺院敷地 約三千坪

墓地火葬場 約六百坪

但住居地外適宜存スヘシ

第十二條 將來市街地トシテ經營發達ヲ見込アル箇所ハ左ノ標準ニ依ルコト

一 市街地ハ一戸ノ間口六間奥行二十六間トス

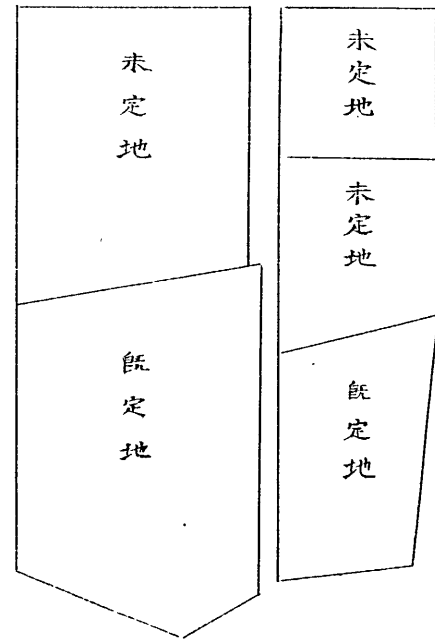
但道幅十間裏通八間トシ六十間トスヘシ

二 市街地約一千戸以上ニ對シ左記標準ヲ以テ豫定地ヲ存スヘシ

二 官公街用地 約二万五千坪
 學校病院敷地 約一万坪
 神社寺院敷地 約七千五百坪
 公園遊園敷地 坪數適宜
 墓地 約五千坪
 但市街地外ニ可成豫定スルコトハ
 三 市街地區域外ニ幅二十間ノ風致林ヲ存スヘシ
 第十三條 河川湖沼堤防其他除地ヲ要スルモノハ別冊土地調査規程心得ニ依ルヘシ
 第十四條 第九條乃至第十二條ニ依リ區畫設計圖(二万五千分一)ヲ調製シ長官經同ノ上實施スヘシ
 第十五條 區畫設計圖ニ基キ務メテ實地ニ適合セシムルヲ要ス
 前項施設ノ際ハ尙ホ左ノ事項ヲ精査スヘシ
 一 地理 地勢及一部落トナルヘキ區域
 二 土性 土壤ノ分布並ニ厚薄乾濕等
 三 動物 動物ノ種類分布被害等ノ狀況
 四 植物 樹木草原ノ狀況
 五 氣候 但出張中毎日ノ觀測ハ別紙ノ様式ニ依ル

六 河川 水景水質及河岸河底ノ地質並ニ水害ノ有無
 七 飲料水ノ良否
 八 河川脈湖沼及其他除地トシテ存スヘキモノ
 九 交通ノ便否
 十 排水灌漑ノ便否
 十一 舊部落ノ位置及狀況
 十二 地名
 第十六條 區畫施設ヲ了シタルトキハ區畫原圖(一萬分一)ヲ製スヘシ
 第十七條 區畫施設ノ際成墾地貸下地等アルトキハ其來歴性質位置坪數周圍ノ延長方向角度氏名等ヲ調査シ區域ヲ原圖ニ記載シ後日區畫輸入ノ際支障ナキ様整理シ置クコト
 第十八條 在來ノ住居地ニシテ第十一條ノ標準ニ依リ難キ場合ハ境界ヲ調査シ適宜從前ヲ檢製用スルコトヲ得
 第十九條 測器ハ「トランシット」ヲ用ユヘシ
 但便宜他ノ測器ヲ用ユルコトヲ得
 第二十條 測鏡ハ竹製ノモノヲ用ユヘシ
 但豫メ準器ト比較スルヲ要ス

第一回



備考 寒暖計(攝氏)ノ垂下ハ百葉箱ニ倣ヒ日光ヲ遮閉シ大氣ノ流通ヲ完全ナラシムル様装置スルコト

月日	晴雨	風向	寒	暖	計	晴	雨	計	摘要
	曇	東北	午前十時	午後二時	計	午前十時	午後二時	計	蟬初メテ鳴ク
	雨	北	一九〇	二二〇		二九、八			寒冷ヲ覺ユ
	晴	西南	二〇、〇	二〇、〇		二八、九			

氣候概測表

第二図

地名

一畑何何萬何千何百何拾何坪
此及別何拾何町何及何畝拾何步

内訳

甲イ何百何拾何坪何合何々何才

計ハ.....

乙イ何百何拾何坪何合何々何才

計ホ.....

丙何百何拾何坪何合何々何才

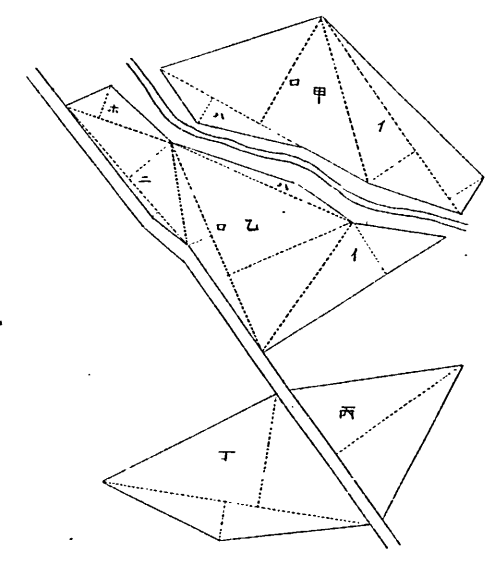
計ニ.....

丁何百何拾何坪何合何々何才

明治何年何月何日調査
尺度何分ノ一
但曲尺何分ヲ以テ一間トス

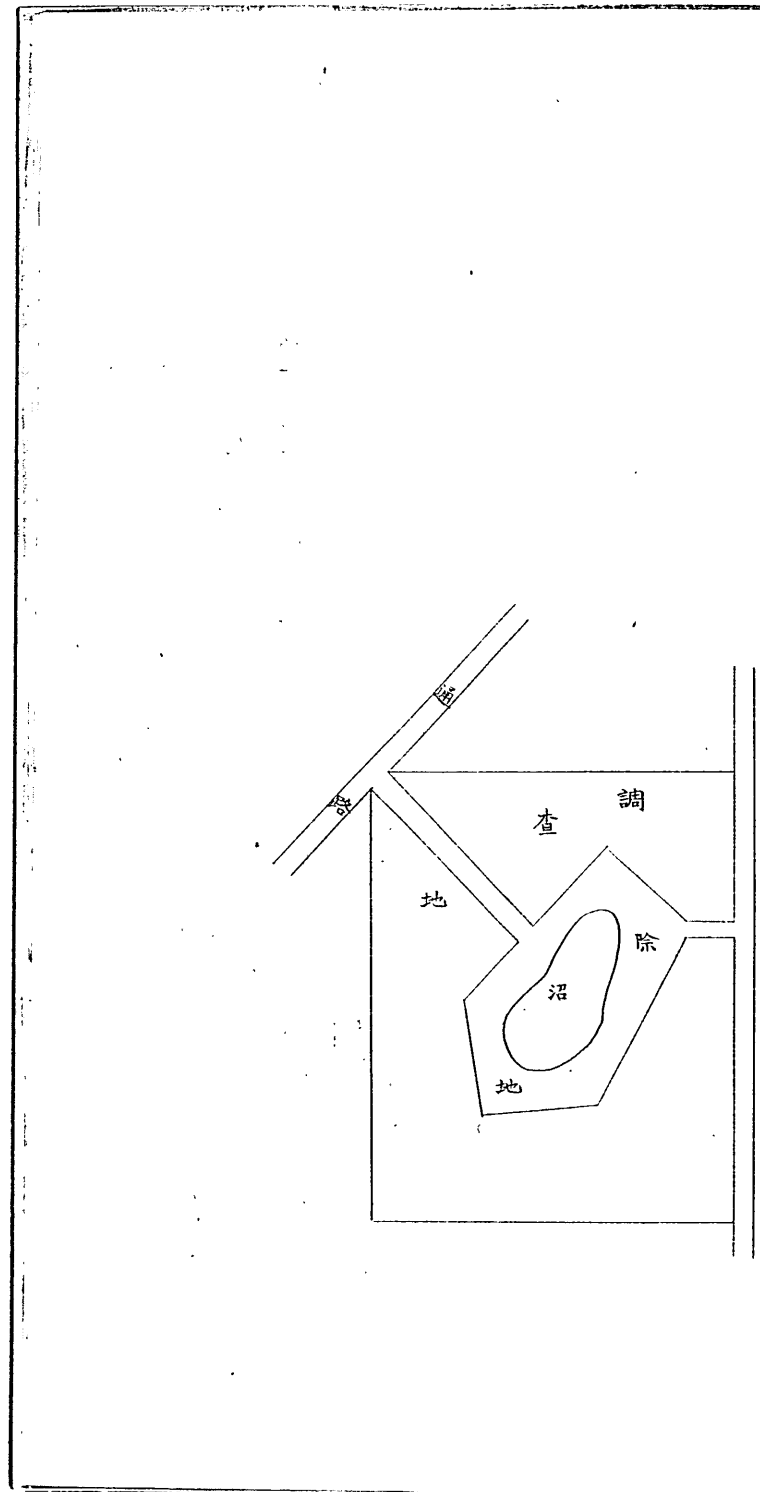
現住地

願人何某



官職氏名印

第三図



地名

第四図

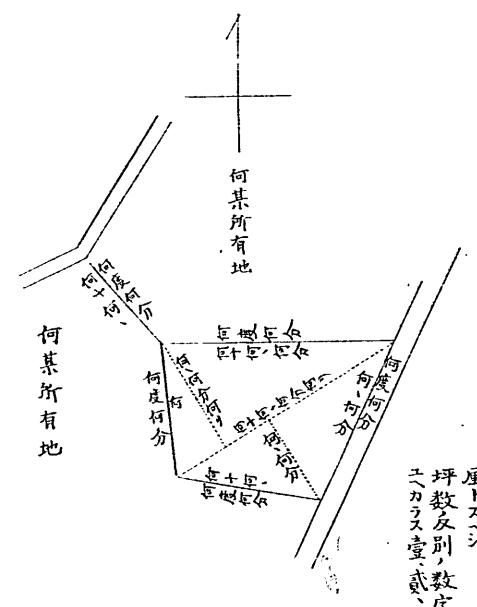
一何(地)何(記)何萬何千何百何十何坪
以及別何拾何町何反何畝何拾何步

現住地

願人 何 某

注意

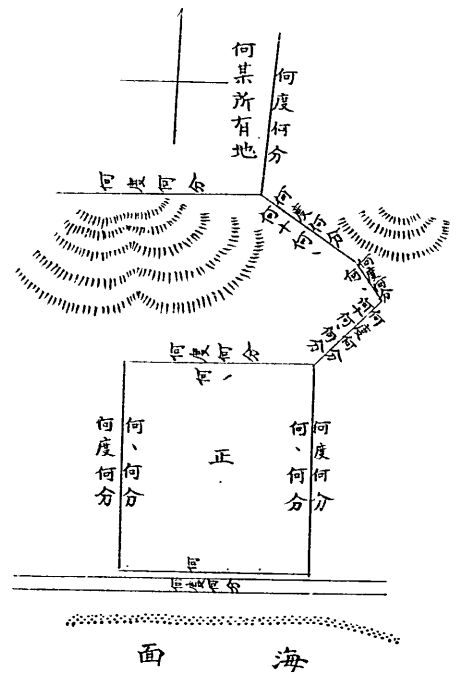
間ノ字ヲ略シテ()トシ間以下分
厘トスニ
坪數及別ノ數字ハ十ノ字ヲ用
ニカテ又壹貳拾ノ字ヲ用ニシ



明治何年何月何日調査
尺度何百分一
但曲尺何分ヲ以テ量開トス

官職氏名印

第五図

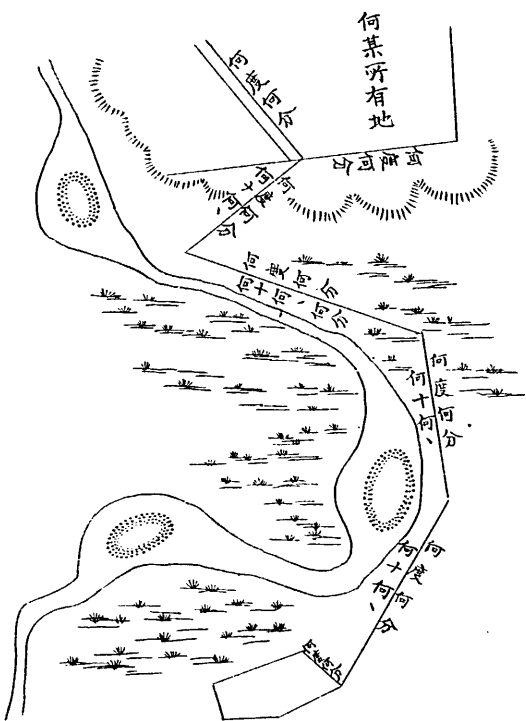


地名(畑)田(宅地)(或、何之)縮図

尺度何分一
但曲尺何分ヲ以テ一間トス

何某碩地

第六圖



明治何年何月何日調査

官職氏名印

第七圖

地名

何某所有地	(四)	五	何某所有地	(五)	五	(三)	(二)	何某所有地
何某所有地	(四)	五	何某所有地	(五)	五	(三)	(二)	何某所有地

(一) 何某 何某
畑 何某何拾何坪
此及併
何拾何坪何何何何何
何何何何何何何何何
何何何何何何何何何

類人
全全全全全全
上上上上上上

明治何年何月何日調査

尺度何分一

但曲尺何分ヲ以テ一間トス

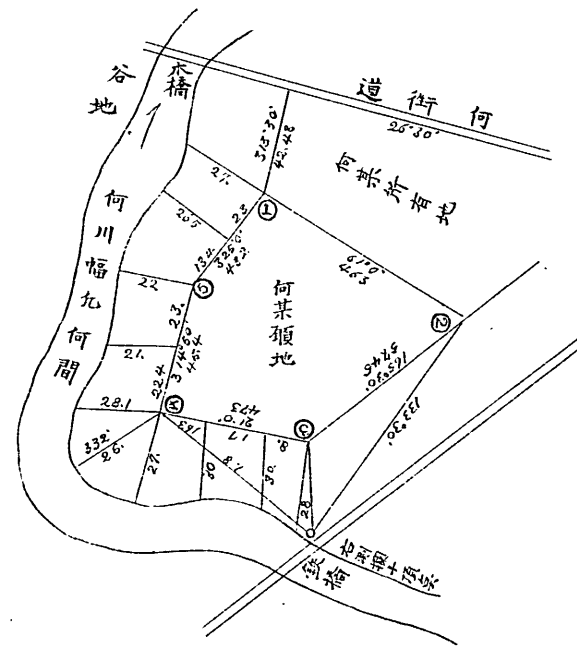
官職氏名印

地名

何年何月何日測

或、
何年何月何日測

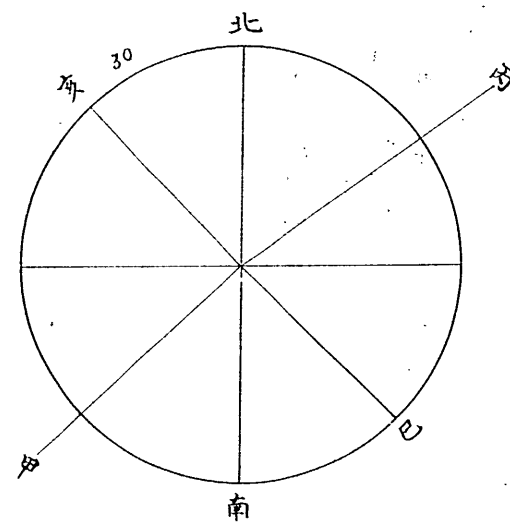
第八図



第九図

明治何年	、	、	何國	同	同	何國
測者	、	、	何郡	同	同	何郡
官姓名	、	、	何村	同	同	何村
印	、	、	何	同	同	何

第十圖



5-0398

0270